

第1章 解表薬

解表薬総論

効能

体表の邪を発散することで、表証^{*}を治癒させる薬物。すなわち、体表に取りついた邪（客した邪）を発汗などにより除去したり、散じたりする（発散^{*}）薬物をいう。発散作用以外にも平喘^{*}・利水^{*}・止痛などの作用を有する。

気味

辛温解表薬では辛温，辛涼解表薬では辛涼が多い。例外には，葛根（甘辛・平[・]），桑葉（苦甘・寒），菊花（辛甘苦・微寒）などがある。

分類と適応証

主に表証に使用される。温性か寒性かにより，1. 辛温解表薬と，2. 辛涼解表薬に分類される。

1. 辛温解表薬：風寒の邪を発散させる薬物で，外感風寒表証に使用される。

辛涼解表薬に比べ発散力は強い。すなわち，悪寒^{*}が強く発熱が弱い・無汗・頭痛・身体痛・薄白苔・脈浮緊などの症状に使用される。

本薬はさらに，1) 発散力が強く，主に感冒に使用される薬物と，2) 発散力は弱く感冒以外にも使用される薬物とに分類される。

2. 辛涼解表薬：風熱の邪を発散させる薬物で，辛温解表薬に比べ発散作用は

緩和である。外感風熱表証や風温証・風熱証などに使用される。すなわち，発熱・微悪寒・咽頭乾燥・咽頭痛・口渴・薄黄苔・脈浮緊などの症状に使用される。

本薬はさらに，1) 風熱表証に主に使用される薬物と，2) 主に脾虚下
 陷証に使用される薬物（昇提中気薬^{しょうていちゅうきやく}）とに分類される。

使用上の注意

1. 辛性は発散する性質があり，気を消耗させたり，血を損傷して血虚や陰虚をより増悪させやすい。そのため以下のような場合は，慎重に使用する（慎用）か，禁忌とする。

慎用：表虚自汗，陰虚發熱，盜汗*，出血，淋病*，熱病後期の津液不足など。

禁忌：過度の發汗，亡陽亡陰など。

2. 辛性は揮発性が強いいため，短時間に煎じる。特に薄荷や蘇葉などは，この性質が強く後下とする。
3. 春季や夏季には少量，秋季や冬季には多量を使用する。
4. 表証の存在時に多量の補気薬を使用すると，邪を止めてしまい（恋邪*），より悪化させることがあり注意が必要となる。

1. 辛温解表薬

- 1) 風寒感冒使用薬……麻黄・桂枝・紫蘇葉・荊芥・香薷など
- 2) 軽度發散薬……防風・羌活・白芷・生姜・蔓荊子・蒼耳子など

2. 辛凉解表薬

- 1) 風温証・風熱証使用薬…薄荷・牛蒡子・蟬退・紫蘇葉・菊花・蔓荊子・豆豉など
- 2) 昇提中気薬……柴胡・葛根・升麻

【注解】

解表の字義：“解”とは，ばらばらにする，とける，取り除きなくする（解除）などの意味。“表”とは，邪が取りついたために出現した表証のこと。つまり，解表とは邪を取り除くことで表証を治癒させるという意味である。

發散の字義：“發（發）”とは弓を弾いて發射することが原義であり，ここよりぱっと離れて開く，外に向かい広がる，ふさがったところから外へ出す，さらには明らかにする（發明）などの意味となった。“散”とは葉をばらばらにすることが原義であり，ここより散らす，固まりをほぐすなどの意味となった。つまり發散とは，皮膚に取りつきふさいだ邪をほぐし，外に向かって散らすように追い出すことである。

解表薬各論

1. 辛温解表薬

麻黄〈まおう〉・麻黄根〈まおうこん〉・桂枝〈けいし〉	
《類似点》	
発汗解表：ともに発汗作用があり，風寒を発散して表証*を治癒させる（解表*）。無汗・悪寒*・頭痛・身体痛・脈浮緊などの外感の表寒実証に用いられる。ともに配合することにより発汗解表力が増強する（相須）。㊟杏仁・葛根・白芍薬など。〔麻黄湯†，葛根湯†〕。	
麻黄	〔基源〕マオウ科シナマオウなどの地上茎。 ◆“肺経の専薬（専門薬）”といわれ，肺に働きかけることで，解表発汗・宣肺*・利水*の各作用を行う◆
辛	
微苦	
温	
肺	
膀胱	1. 発汗解表：腠理*を開き発汗させ，風寒の邪を強力に散らして，表証を治癒させる（解表*）。無汗・悪寒*・頭痛・身体痛・脈浮緊などの外感の表寒実証に用いられる。㊟麻黄（相須）・杏仁・葛根・白芍薬など。〔麻黄湯†，葛根湯†〕。 2. 宣肺平喘：寒飲や熱邪のために閉塞され詰まった肺気を，宣肺*作用を高めることで流暢にさせる。咳嗽・喘息などの呼吸困難（气喘*）に用いられる。㊟①風寒による咳嗽や气喘・白色痰には，杏仁・甘草など。〔三拗湯〕。②寒飲による咳嗽・透明多量の痰・气喘などには，細辛・五味子・乾姜・半夏など。〔小青竜湯†〕。③外感陽虚証の強い悪寒や冷感*・倦怠感・脈沈遅・咽頭痛などには，附子・細辛など。〔麻黄細辛附子湯†〕。④肺に熱が鬱した（熱邪壅肺*証）ための，発熱・口渴・气喘・黄色痰・黄苔などには，石膏・黄芩・杏仁など。〔麻杏甘石湯†，五虎湯†，大青竜湯〕。 3. 利水消腫：肺の通調水道*を強めることで，利水作用を起こさせる。悪風*・脈浮など表症を伴う浮腫・風水*・上半身の浮腫などに用いられる。㊟①白朮・生姜・甘草など。②鬱熱時には石膏を配合。〔越脾湯，越脾加朮湯†〕。③寒飲の浮腫には，附子・細辛など。〔麻黄附子細辛湯†〕。 4. 他 (1) 透疹*：麻疹の初期や湿疹に使用される。他の透疹薬の補助として用いられる。㊟薄荷・蟬退・葛根など。 (2) 祛風湿：寒邪を散じ利水するところより，風寒湿痺証に使用される。㊟桂枝・杏仁・白朮など。〔麻黄加朮湯，麻杏薏甘湯†〕。 〔用法〕1.5～10g。発汗解表には少量，平喘利水には多量を用いる。生麻黄は発汗力が強い。炙麻黄は発汗力は弱まり平喘止咳作用が強まる。蜜炙麻黄は発汗力は弱まり，潤肺平喘作用に優れる。 〔注意〕発汗力が強いので，表虚証の自汗や陰虚の盗汗*，腎虚の咳嗽（腎不納気*証）には禁忌。

		【付】麻黄根（まおうこん） 【基原】マオウ科シナマオウなどの根。 甘 平 肺 1. 止汗：腠理*を固めることでよく汗を止める。表虚証や陰虚証の自汗・盜汗*に用いられる。㊟ ①表虚証には、黄耆・浮小麦・牡蛎など。〔麻黄根散〕。②陰虚証の盜汗には生地黄・熟地黄・山茱萸・竜骨・牡蛎など。 【用量】3～10g。外用も可。
桂 枝	辛 甘 温 心 肺 膀胱	【起原】クスノキ科ケイの若枝（嫩枝）。 ◆表裏の陽気を温め、表邪を除き、気血を巡らせる◆ 1. 発汗解表：体表部に作用し、よく温めて軽度に発汗させ表証*を取り除く（解肌*）。風寒の外感表証に使用されるが、表実・表虚証、有汗・無汗にかかわらずともに使用可能。 (1) 外感表虚証の自汗・悪風・脈浮緩や易感冒症などに使用される。㊟ 白芍・生姜・大棗・甘草など。〔桂枝湯↑〕。 (2) 無汗・悪寒・頭痛・身体痛・脈浮緊などの外感の表寒実証に用いられる。㊟ 麻黄（相須）・杏仁・葛根・白芍薬など。〔麻黄湯↑，葛根湯↑〕。 2. 温経：経絡を温めて血行を促進し（通経*），風寒湿の邪を散じ，疼痛を緩和する。 (1) 上肢肩関節など上部の風寒湿痺証に多用されるが，熱痺や寒熱錯雑*の痺証にも使用される。㊟ ①風寒湿痺証には，羌活・防風・附子など。〔桂枝加附子湯〕。②熱痺・寒熱錯雑痺証には，石膏・知母など。〔白虎加桂枝湯，桂芍知母湯↑〕。 (2) 寒による血の停滞（寒凝血滯）のための，月経痛・無月経（閉経*）・腫瘍・胃痛などに使用される。㊟ ①月経痛や無月経には，川芎・当帰・白芍・呉茱萸など。〔温経湯↑〕。②四肢の冷感*には，細辛・木通・当帰など。〔当帰四逆加呉茱萸生姜湯↑〕。③脾胃虚寒証の胃痛には，白芍・飴糖など。〔小建中湯↑〕。④温経活血するために，牡丹皮・桃仁・紅花などを配合する。〔桂枝茯苓丸↑〕。 3. 通陽化気：陽気を温め活発にしてよく巡らせ（通陽），さらに痰湿を吸収し除く（化気*）。以下の病態に使用される。 (1) 肺や脾胃に痰飲が停滞し陽気が通りにくくなった病態。㊟ ①肺の寒飲停滞による咳嗽・水様透明痰・悪寒・発熱・無汗・顔面の浮腫などには，麻黄・細辛・乾姜など。〔小青竜湯↑〕。②脾胃の水飲停滞によるめまい・動悸・嘔吐などには，茯苓・白朮・甘草など。〔苓桂朮甘湯↑〕。 (2) 膀胱の気化*不全による小便不利*・浮腫など。㊟ 猪苓・沢瀉・白朮など。〔五苓散↑〕。 (3) 心陽不振*により陽気が巡らず，胸痛・痞満・動悸が出現した病態。㊟ ①胸痛や胸部痞塞感・胸悶*などには，薤白・瓜蒌・枳実・厚朴など。〔枳実薤白桂枝湯〕。②動悸・脈結代があるときには，炙甘草・人参など。〔炙甘草湯↑〕。 【用法】3～10g。風湿痺証の疼痛には多量使用も可。丸・散剤も可。 【注意】温性が強いので，陰虚証・温熱性の疼痛・出血症には禁忌。妊婦・月経過多症には慎重に用いる。

紫蘇葉 〈しそよう〉・荊芥 〈けいがい〉	
《類似点》	
発散風寒：発汗により風寒を散じて表証*を治癒させる（解表*）。穏やかな薬性で、最も一般的な辛温解表薬。風寒表証の悪寒・発熱・頭痛・鼻閉・無汗などに使用される。なお、表寒証が強いときには、麻黄や桂枝が用いられる。	
紫蘇葉	辛 温 肺 脾 胃 〔統一〕 肺 脾 〔別名〕 紫蘇 〈しそ〉・蘇葉 〈そよう〉 〔起原〕 シソ科シソなどの葉。 ◆風寒を散じ、気を巡らせ肺や脾胃の気滞を去る。荊芥に比べ、散寒力は強い◆ 1. 発汗解表：発汗により風寒を散じて表証*を治癒させる（解表*）。穏やかな薬性で、最も一般的な辛温解表薬。風寒表証の悪寒発熱・頭痛・鼻閉・無汗などに使用される。発汗力は麻黄に次いで強い。 〔1〕 一般的な風寒表証や胸悶感・咳嗽を伴う風寒感冒などに使用される。〔配〕 咳嗽を伴う風寒感冒時には、杏仁・前胡など。〔杏蘇散〕。 〔2〕 悪心・嘔吐・胃部不快感などを伴う胃腸型感冒、虚弱者の感冒（補益薬と配合）などに多用される。〔配〕 気滞を伴う表寒証の胸悶感・悪心嘔吐・腹部脹満などには、香附子・陳皮・半夏・枳実など。〔香蘇散†, 参蘇飲†〕。 2. 行気和中：気を巡らせ脾胃の気滞を緩和し（寛中），脾胃の働きを伸びやかに調整し（和中*），嘔吐を止める。脾胃気滞の胸悶*・胃部の重苦しさやつかえ・悪心・嘔吐などに使用される。〔配〕 ①寒証には、藿香・大腹皮・陳皮・香附子・半夏など。〔藿香正気散〕。②胃熱*による口苦・黄苔などには、黄连など。③気滞により痰が停滞（痰結）したための、梅核気*・胸悶感・嘔吐などには、半夏・厚朴・香附子など。〔半夏厚朴湯†〕。 3. 行気安胎：気を巡らせるとともに安胎*（流産防止）作用もあり、妊娠性嘔吐などに使用される。〔配〕 陳皮・白朮・砂仁・木香など。 4. 他：魚貝類や蟹の食中毒による下痢・腹痛・嘔吐などに用いられる。〔配〕 生姜・白朮・半夏など。 〔用法〕 3～10g。長時間煎じない。外用も可。
荊芥	辛 温 肺 肝 〔別名〕 假蘇 〈かそ〉 〔起原〕 シソ科ケイガイ花穂もしくは花穂付茎枝。 ◆紫蘇に比べ祛風作用に優れるが、辛温性は弱く、血分にも作用する◆ 1. 祛風解表：優れた祛風作用を有し、よく風邪を発散し解表*する。最も一般的な辛温解表薬。温性・辛性は弱く、薬性は温和なため、風寒・風熱両証ともに使用が可能。風寒表証の悪寒発熱・頭痛・鼻閉・無汗などに使用される。特に頭痛や咽頭痛を伴う感冒に多用される。〔配〕 ①風寒証の悪寒発熱・頭痛・無汗などには、防風・羌活・独活など。〔十味敗毒湯†, 荊防敗毒散〕。②風熱証の発熱・頭痛・咽頭痛などには、連翹・薄荷・桔梗・金銀花など。〔銀翹散〕。③風邪による頭痛には、羌活・防風・川芎など。〔川芎茶調散†〕。 2. 止血：血分に作用して止血する。鼻出血・吐血・下血・崩漏*（不正性器出血）・過多月経などに使用される。炒炭荊芥がよく用いられる。〔配〕 側柏葉・槐花・地榆など。〔槐花散〕。 3. 透疹・止痒・止癢：祛風作用により痒痒感や癢癢を緩和し、透疹*する。 〔1〕 風疹・蕁麻疹・皮膚痒痒感などに使用される。〔配〕 ①蒼朮・蟬退・白蘇皮・防風など。〔消風散†, 治頭瘡一方†, 十味敗毒散〕。②血虚の痒痒感には、当帰・

	何首烏など。〔当帰飲子†〕。③発疹が不十分の風疹や麻疹の初期には、薄荷・防風・升麻・牛蒡子・蟬退など。〔竹葉柳莠湯〕。 (2) 産後などの出血過多によるめまい・筋の拘縮・痙攣などに使用される。 〔用法〕 3～10g。長時間は煎じない。炒炭荊芥は止血作用に優れる。
	【付】 荊芥穗 〈けいがいほ〉 【基原】 荊芥の花穂。 発汗力は荊芥より強い。
防風 〈ぼうふう〉	
防風	〔起原〕 セリ科ボウフウの根茎。 ◆全身を巡り、風邪による緒証を緩和する。祛風の重要薬◆ 1. 祛風：強い祛風作用を有し、風邪による広範囲の疾患に使用される。祛風薬の多くは温性・燥性であるのに対し、微温でかつ燥性は弱い。これより“風薬中の潤薬”とも呼ばれる。寒熱両証に使用可能。 (1) 祛風解表——風邪を発散*し解表*する。発汗力は弱い。①風寒表証で特に頭痛や身体痛が強いときによく使用される。〔配〕 荊芥・羌活・白芷・紫蘇葉など。〔荊防敗毒散〕。②温性が弱く薬性が穏やかなところより、風熱表証にも使用される。〔配〕 荊芥・黄芩・連翹・薄荷など。③表虚証による易感冒症・自汗などに使用される。〔配〕 黄耆・白朮など。〔玉屏風散〕。 (2) 祛風止痛——①風寒湿痺証の筋肉関節痛・しびれなどに使用される。特に風邪が強い証に用いられる。〔配〕 羌活・独活・桂枝・蒼朮・威靈仙など。〔獨痺湯，防風通聖散†，疏經活血湯†〕。②局所の熱感・発赤などがある寒熱錯雑*証や熱証の痺証にも使用される。〔配〕 石膏・知母など。〔桂芍知母湯†，当帰拈痛湯〕。③風寒証の頭痛や止痛に使用される。〔配〕 川芎・白芷・羌活など。〔川芎茶調散†，立効散†〕。 (3) 祛風止痙——祛風により、筋を緩め痙攣を緩和する。止痙力は弱く、補助薬として使用される。破傷風などの牙関緊張・痙攣・角弓反張などに使用される。〔配〕 天南星・白附子・白僵蚕・天麻など。〔玉真散〕。 (4) 祛風止痒——祛風により痒痒感を緩和する。風熱の発疹や皮膚痒痒症に使用される。〔配〕 荊芥・薄荷・連翹・山梔子など。〔消風散†，治頭瘡一方†，清上防風湯†〕。 2. 止瀉：肝脾不和*の下痢や腹痛に使用される。〔配〕 白芍・白朮・陳皮など。〔痛瀉要方〕。 〔用法〕 3～10g。生防風は解表や止痛に，炒防風は腹痛や止瀉に優れる。 〔注意〕 陰虛火旺*，血虛には使用しない。日本で使用されている浜防風とは，作用が異なるので注意が必要。 〔参考〕 わが国の浜防風は中国名では北沙参のこと。これは，本来の防風は日本では自生していないため，江戸時代に浜防風の根を防風の代用としたためである。

羌活〈きょうかつ〉・藁本〈こうほん〉・白芷〈びやくし〉	
《類似点》	
1. 祛風燥湿止痛：祛風，燥湿，止痛の三作用を有する辛温解表薬。風寒の頭痛や風寒湿の痺証などに多用される。 2. 発散風寒：風寒の邪を発散する。特に頭痛・身体痛がある風寒表証に用いられる。 3. 昇散作用：上昇作用があり，上半身に作用を及ぼす。そのために，頭部や肩などの疾患に多用される。	
羌活	辛苦 温 膀胱肝 [統一] 膀胱腎 〔起原〕セリ科キョウカツなどの根茎および根。 ◆“その気は雄にしてよく散ず”といわれ，三葉中，最も強い発汗・発散風寒・祛湿・止痛作用を有する◆ 1. 発散風寒：風寒の邪をよく散じ寒湿を除く。風寒表証で，特に頭痛や身体痛・寒湿証を伴う病態に使用される。〔配〕防風・白芷・細辛・川芎など。〔九味羌活湯〕。 2. 祛風湿・止痛：祛風し湿を除くことで止痛する。 (1) 風寒湿痺証や風寒，風熱による関節痛・筋肉痛に使用される。特に頭部・肩など上半身の病症に多用される。〔配〕独活（相須）・防風・川芎・細辛など。〔獨痺湯〕。 (2) 風寒による頭痛（特に後頭部）や歯痛に使用される。〔配〕防風・川芎・白芷など。〔川芎茶調散†〕。 (3) 風湿の湿疹にも使用される。〔配〕防風・荊芥・薄荷・蟬退など。〔消風散†〕。 〔用法〕3～10g。 〔注意〕血虚の痺証には禁忌。多量で嘔吐などを引き起こすことがある。
藁本	辛苦 温 膀胱 〔基原〕セリ科のコウホンやムレイセンキウなどの根茎および根。 ◆寒性の頭痛に多用される辛温解表薬◆ 1. 発散風寒・止痛：祛風し湿を除くことで止痛する。風寒や風湿による慢性頭痛・偏頭痛などに使用される。特に湿気での増悪・冷感*，白膩苔や白厚苔などを呈する寒湿による頭頂部の頭痛（厥陰頭痛）に適する。〔配〕羌活・防風・白芷・川芎・蔓荊子など。〔羌活勝湿湯〕。 2. 他：風湿痺証の止痛にも用いられる。〔配〕羌活・防風・威靈仙など。 〔用法〕2～10g。 〔注意〕血虚頭痛や熱証には禁忌。
白芷	辛苦 温 肺胃 〔基原〕セリ科ヨロイグサなどの根。 ◆温燥除湿作用が強く，“善く頭面諸症を治す”といわれ，頭部・顔面の諸疾患に多用される◆ 1. 祛風解表止痛：祛風し湿を除き止痛する。 (1) 頭痛・めまい・鼻閉を伴う湿邪が強い風寒表証，風寒や風湿による頭痛，歯痛などに使用される。前額部や眉稜部の疼痛（陽明頭痛）に適する。〔配〕羌活・防風・細辛・荊芥・川芎など。〔川芎茶調散†，九味羌活湯〕。 (2) 風熱表証にも用いられる。〔配〕葛根・黄芩・柴胡など。 2. 通鼻竇：鼻閉鼻汁や前額部の脹満痛を緩和し，鼻腔の通気を良好にする（通鼻*）。鼻淵*などに使用される。〔配〕辛夷・蒼耳子・薄荷など。〔蒼耳子散，辛夷散〕。 3. 排膿消癰：よく排膿を促進し，皮膚化膿症の初期で発紅腫脹疼痛のあるものに使用される。化膿後にも使用される。〔配〕①金銀花・連翹・蒲公英・山梔子・柴胡

		など。〔清上防風湯†，荊芥連翹湯†，仙方活命散〕。②化膿後には，金銀花・天花粉・穿山甲など。 4. 燥湿止帯：強い除湿作用により帯下を止める。寒湿の帯下に多用されるが，湿熱帯下にも用いられる。〔配〕①寒湿帯下には，烏賊骨・白朮・鹿角霜・茯苓など。〔白帶丸〕。②湿熱帯下には，黄柏・椿根皮・車前子など。 5. 他：祛風祛湿作用により止痒する。風湿による掻痒症・湿疹・眼部掻痒・流涙などに使用される。 〔用法〕3～10g。外用も可。 〔注意〕陰虛火旺*証には禁忌。
蒼耳子〈そうじし〉・辛夷〈しんい〉		
《類似点》		
◆鼻淵*の常用薬。解表薬としてはあまり使用されない◆ 通鼻・散風寒：鼻腔の通気を良好にする（通鼻*）。鼻淵・鼻閉・粘性鼻汁・無臭，さらに風寒性の頭痛に多用される。寒熱両証に使用可能だが，特に風寒証の病態に適する。 〔配〕①寒証鼻淵や頭痛には，細辛・防風・白芷・藁本など。②熱証鼻淵には，薄荷・黄芩・連翹・石膏など。		
蒼耳子	苦辛温肺	〔基原〕キク科オナモミの成熟果実。 ◆通鼻し皮膚の湿を除く。鼻淵頭痛の重要薬。辛夷に比べ，祛風除湿作用が強く，鼻淵以外にも使用される◆ 1. 通鼻・散風寒：類似点と同様。 2. 祛風湿止痛：祛風とともに湿を除き止痛する。 （1）風湿痺証の関節筋肉痛・筋拘縮に使用される。〔配〕威靈仙・川芎・秦艽・蒼朮・肉桂など。 （2）止痒作用もあり，湿疹にも用いられる。〔配〕蒺藜子・蟬退・地膚子・荊芥など。 〔用法〕3～10g。 〔注意〕毒性があり，多量の使用で嘔吐・腹痛・下痢などを引き起こすことがある。多量には使用しない。副作用防止のため炒蒼耳子を使用するとよい。陰虛火旺*には禁忌。
辛夷	辛温肺胃	〔基原〕モクレン科モクレンやハクモクレン望春花などの花蕾。 ◆鼻疾患の常用薬。蒼耳子に比べ，通鼻作用は強いが解表力は弱い◆ 1. 通鼻・散風寒：類似点と同様。鼻淵の常用薬で鼻淵治療に多用される。類似点適応症以外にも，風寒性の頭痛に多用される。〔配〕①寒証鼻淵や頭痛には，細辛・防風・白芷・藁本など。〔葛根湯加辛夷川芎†〕。②熱証鼻淵には，薄荷・黄芩・連翹・石膏など。〔辛夷清肺湯†〕。 〔用法〕3～10g。外用も可。包煎。 〔注意〕陰虛火旺*には禁忌。

葱白〈そうはく〉		
葱 白	辛	〔基原〕 ユリ科ネギの新鮮白色茎。 ◆散寒通陽に優れる辛温解表薬◆ 1. 発汗解表：発汗力は弱く，風寒表証の軽症に用いられる。〔配〕 生姜・豆豉など。 〔葱白湯，葱豉湯〕。 2. 散寒通陽：よく温めて体内の寒邪を散じ，陽気を通じさせる（通陽）。 （1）寒証の気滞による下痢・寒疝の腹痛・四肢の厥冷*・脈微細などに使用される。炒って腹部に乗せてもよい。〔配〕 附子・乾姜など。〔白通湯〕。 （2）膀胱の気化不利*による小便不利*などにも用いられる。 〔用法〕 3～10g。外用も可。 〔注意〕 表虚の多汗には禁忌。
	温	
肺 胃		
生姜〈しょうきょう〉		
生 姜	辛	〔基原〕 ショウガ科ショウガの新鮮な根茎。 ◆解表して中焦を和す。解表作用とともに脾胃を温め整えて除湿し，よく止嘔する◆ 1. 発汗解表：風寒表証で悪寒発熱・頭痛・鼻閉などに使用される。解表*作用は弱く，主に他の辛温解表薬の補助薬として用いられる。〔桂枝湯†〕。 2. 温中・止嘔： （1）胃を温め胃気を降ろし湿を除くことで，悪心・嘔吐を止める。そのため“嘔家の聖薬”といわれる。寒熱両証に使用可能。〔配〕 ①胃寒証の口渇がない悪心・嘔吐・腹痛・滑苔などには，半夏・陳皮・茯苓など。〔小半夏加茯苓湯†〕。②胃熱証の口苦・胸やけ・黄苔を伴う悪心・嘔吐には，黄連・竹筴・枇杷葉など。〔橘皮竹筴湯〕。 （2）生姜汁で炮製することで他薬の止嘔作用を増強させる。姜竹筴・姜半夏など。 3. 解毒： （1）半夏・天南星・附子・烏頭などの毒性や刺激性を緩和する。またこれらの薬物中毒に用いられる。また半夏・天南星などは，一般に生姜とともに炮製して毒性を中和後に使用されることが多い。 （2）魚や蟹の中毒による嘔吐・下痢などを緩和する。〔配〕 紫蘇など。 〔用法〕 3～10g。外用も可。絞り汁を服用してもよい。 〔注意〕 温燥性があるため，陰虚内熱証・表虚自汗・胃陰虚の嘔吐には禁忌。
	微温	
肺 脾 胃		
【付】 生姜皮〈しょうきょうひ〉 辛 涼 1. 利水消腫：脾の機能を高め水を除く。主に浮腫に使用される。〔配〕 茯苓皮・桑白皮・大腹皮など。〔五皮飲〕。		

【参考】 生姜の炮製：炮製の違いにより，以下のような作用の相違が出てくる。

煨姜^{わいきょう}：辛，温，肺・脾・胃。生姜を焼いたもの。生姜と乾姜の中間的な性質がある。

すなわち，辛散作用は生姜より劣るが，温裏和中作用は優れる。主に胃寒証の嘔吐や腹痛，下痢に用いられる。

乾姜^{かんきょう}：辛，熱，脾・胃・肺・心。乾燥した生姜の根。辛散作用は弱く，温中散寒*・

回陽救逆*作用に優れ，温裏薬として使用される。温裏薬の項を参照。

炮姜^{ほうきょう}：苦・辛，熱，脾・肝。乾姜の表面を黒く炒ったもの。その作用は乾姜に似るが，

辛散・温中作用は乾姜より弱い。だが、温経止血作用に優れ、陽虚証の出血に主に使用される。〔配〕艾葉・側柏葉など。〔生化湯〕。

以上をまとめると、発散*作用は生姜が最も強く、次いで煨姜、乾姜、炮姜の順に弱くなる。温中*作用は乾姜が最も強く、炮姜、煨姜、生姜の順に弱くなる。

生姜（中国）の炮製による作用の相違

	主な作用	発散作用	温中作用
（中国の）生姜	〔辛温〕 辛温解表	1	4
（ " ）乾姜	〔辛熱〕 温中散寒，回陽救逆，温肺化飲	3	1
（ " ）炮姜	〔辛熱〕 温経止血	4	2
（ " ）煨姜	〔辛温〕 温裏止痛，止瀉	2	3

日本と中国の生姜と乾姜の表記の相違〔漢方くすりの事典より〕

	生ショウガ	乾燥したショウガ	加熱したショウガ
中国名	生姜	乾姜	煨姜・炮姜
日本名	鮮姜	乾生姜（生姜）	乾姜

香薷（こうじゅ）

香 薷	辛 微温 肺 胃	〔基原〕 シソ科ナギナタユウジュおよび海州香薷の全草。 ◆ “夏月の麻黄” といわれ、麻黄に類似した性質を有し、夏季の寒邪の感冒に多用される◆ 1. 発汗祛暑化湿：発汗解表とともに脾胃の作用を整え湿を除く（和中*化湿）。 （1）夏季の寒邪による外感表寒証（陰暑証）の悪寒発熱・無汗・頭痛などの症状に使用される。〔配〕扁豆・厚朴など。〔香薷飲〕。 （2）夏季の冷飲食物摂取などの寒湿による腹痛・下痢・嘔吐などの症状にも使用される。ただし脾虚による上記症状には使用しない。 2. 利水消腫：水湿を去る。浮腫・小便不利*などに使用される。〔配〕白朮・茯苓など。〔薷朮丸〕。 〔用法〕 3～10g。発汗力は比較的強いので、解表用には少量を用いる。 〔注意〕 本薬は辛温性の発汗解表薬であり、夏季の外感表寒証で無汗の病症に用いられる。暑邪*による大熱・大渴・大汗（多汗）の証（陽暑証）には使用しない。また表虚の多汗には禁忌。
--------	---------------------------	---

2. 辛涼解表薬

薄荷〈はっか〉・牛蒡子〈ごぼうし〉・蟬退〈せんたい〉	
《類似点》	
◆利咽・透疹作用を有する辛涼解表薬。ともによく配合される（相須）◆ 1. 発散風熱：風熱を散じる。風熱表証の熱感・軽度悪寒・咽頭痛・微発汗などに使用される。特に薄荷と牛蒡子は、最も一般的な辛涼解表薬である。 2. 清利咽頭*：咽頭の熱を冷まし流暢に呼吸させる。風熱による咽頭の発赤腫脹・疼痛などに使用される（特に薄荷と牛蒡子）。また嗄声にも用いられる（特に蟬退）。 3. 透疹*：風熱を散じるとともに熱毒を排出することにより透疹させる。麻疹の初期や湿疹が出切らないもの、風熱の発疹などに使用される。	
薄荷	〔基原〕 シソ科ハッカの地上部や葉。 ◆風熱の邪を透散*する。芳香性で軽く浮いて上昇し頭部疾患に多用される◆ 1. 発散風熱：最も一般的な辛涼解表薬で、風熱を散じる。辛涼解表薬中、発汗解表力は最も強い。風熱表証の熱感・軽度悪寒・咽頭痛・微発汗などに使用される。原則として実証に使用される。〔配〕 荊芥・金銀花・連翹・牛蒡子（相須）など。〔銀翹散，桑菊飲〕。 2. 清頭目*：頭や眼の熱を冷まし明瞭にする。 （1）風熱による頭痛や眼球結膜充血（目赤*）などに使用される。〔配〕 桑葉・菊花・蔓荊子など。〔薄荷湯〕。 （2）風寒表証の頭痛にも補助的に使用される。〔配〕 川芎・荊芥・白芷など。〔川芎茶調散†〕。 3. 清利咽頭*：咽頭の熱を冷まし流暢に呼吸させる。風熱による咽頭の発赤腫脹・疼痛・嗄声などに使用される。〔配〕 牛蒡子（相須）・桔梗・荊芥など。〔六味湯〕。 4. 透疹*：風熱を散じるとともに熱毒を排出することにより、透疹させる。麻疹の初期や湿疹が出切らないもの、風熱の発疹などに使用される。止痒作用もある。〔配〕 蟬退（相須）・牛蒡子（相須）・荊芥・葛根など。〔透疹湯，竹葉柳蒡湯〕。 5. 疏肝解鬱*：芳香発散性により気を巡らせて鬱を開く。薬力は弱い。肝気鬱結*証に対し補助的に使用される。〔配〕 柴胡・白芍・当帰など。〔加味逍遙散†〕。 〔用法〕 2～6g。芳香性であり後下する。 〔注意〕 発汗性が強く、陰虛火旺*証や表虛証の自汗には禁忌。
牛蒡子	〔基原〕 キク科ゴボウの成熟果実。 ◆風熱を散ずるとともによく解毒する。薄荷に比べ発汗力は弱い、優れた清熱解毒作用を有する◆ 1. 発散風熱・清利咽頭*：風熱を散じる。一般的な辛涼解表薬。 （1）風熱表証の熱感・軽度悪寒・咽頭痛・微発汗などに使用される。 （2）咽頭の熱を冷まし流暢に呼吸させる。また解毒作用もあり、風熱による咽頭の発赤腫脹・疼痛などに多用される。また嗄声などにも使用される。〔配〕 金銀花・連翹・薄荷（相須）・桔梗など。〔銀翹散，牛蒡湯〕。 2. 清肺熱：肺熱を除き、肺気をよく流通させ（宣肺*），痰の咯出を容易にし（祛痰*），よく止咳する。風熱咳嗽のほか陰虛の咳嗽にも使用される。〔配〕 ①咯出困難な痰を伴う風熱の咳嗽には、麻黄・石膏・杏仁・黄芩など。②陰虛や肺陰火旺による咳嗽・

		咯血痰・咯出困難な痰には、阿膠・杏仁など。〔補肺阿膠湯〕。 3. 清熱解毒：優れた清熱解毒作用を有し、風熱や熱毒による咽頭腫脹（扁桃腺炎）や皮膚化膿症などに使用される。〔配〕①咽頭の腫脹疼痛には連翹・金銀花・桔梗・薄荷（相須）など。〔銀翹馬勃散，牛蒡湯，普濟消毒飲〕。②皮膚化膿症には，黃連・黃芩・玄參など。〔普濟消毒飲〕。 4. 解毒透疹：薄荷・蟬退と同様に，風熱を散じるとともに熱毒を排出することにより，透疹*させる。薄荷より解毒作用に優れる。麻疹の初期や湿疹が出切らないもの，風熱の発疹などに使用される。止痒作用もある。〔配〕蟬退（相須）・薄荷・荊芥・葛根など。〔透疹湯，竹葉柳蒡湯〕。 5. 潤腸通便：便通を促進する。便秘傾向のある風熱表証に用いるとよい。 〔用法〕3～10g。丸・散剤も可。炒牛蒡子は寒性を弱め，中焦の陽気を損なわず，虚弱者に使用される。 〔注意〕通便作用があるため，脾虚の下痢には禁忌。
蟬退	鹹微甘 寒 肺肝	〔別名〕蟬蛻（せんぜい）・蟬衣（せんい） 〔基原〕セミ科スジアカクマゼミなどの抜け殻。 ◆肺熱を散じよく開音し，涼肝熄風作用を有する◆ 1. 発散風熱・利咽開音：風熱を散じ，咽頭の熱を去る。さらに呼吸を流暢にし嗄声を緩和する（開音*）。 （1）風熱表証の発熱・頭痛・咽頭痛・結膜充血などに使用される。〔配〕薄荷（相須）・牛蒡子（相須）・連翹など。 （2）肺の鬱熱を除く。肺熱や風熱による嗄声・咽頭腫脹・咳嗽などに使用される。〔配〕嗄声には胖大海とよく配合される〔海蟬散〕。そのほか，桔梗・甘草・牛蒡子など。 2. 透疹止痒 （1）風熱を散じるとともに熱毒を排出することにより透疹*させる。麻疹の初期や湿疹が出切らないもの，風熱の発疹などに使用される。〔配〕牛蒡子（相須）・薄荷（相須）・荊芥・葛根など。〔透疹湯〕。 （2）祛風作用により止痒する。風邪や風湿熱による風疹・湿疹・皮膚瘙癢症などに使用される。〔配〕防風・荊芥・連翹・石膏・蒺藜子など。〔消風散†〕。 3. 止痙：肝経の熱を冷まし風を鎮めること（涼肝熄風作用）により，痙攣を緩和する。小児の熱性痙攣・破傷風・夜泣きなどに使用される。〔配〕釣藤鈎・全蝎・僵蚕など。〔止痙散，五虎追風湯〕。 4. 明目退翳： （1）肝経の風熱を除き，目を明瞭にする（明目退翳*）。風熱による結膜の充血・角膜混濁（目翳*）・眼痛・多涙などに使用される。〔配〕菊花・蒺藜子・木賊・決明子など。〔蟬花散〕。 （2）頭目を明瞭にする（清頭目*）作用もある。〔配〕菊花など。 〔用法〕2～5g。止痙には多量（15～30g）を使用する。また小児には少量とする。丸・散剤も可。 〔注意〕多くは実証に使用する。

桑葉〈そうよう〉・菊花〈きくか〉

《類似点》

◆風熱を軽く散じるとともに清肝明目作用を有する。ともによく配合される（相須）◆

1. 疎散風熱：発散力は弱く、風熱を軽く散らす（疏散）。風熱表証に用いられるが、作用を強化するため、他の疎散風熱薬と配合される。甘性であり潤す性質（潤性）があり、燥性の病態によく使用される。㊟薄荷・連翹・芦根・桔梗など。〔桑菊飲〕。

2. 清肝明目：肝経の熱を冷まし、目を明瞭にする（明目*）。

(1) 風熱や肝火上炎*による眼球結膜の充血・目の腫脹・頭痛・羞明などに使用される。

㊟決明子・車前子・薄荷・連翹など。〔桑菊飲〕。

(2) 肝陽上亢*の頭痛・めまいなどに用いられる。㊟釣藤鈎・牡蛎など。

(3) 清熱とともに軽度の潤燥作用もあるため、肝陰不足の眼花*・霞目・羞明などに使用される。㊟女貞子・生地黄・枸杞子・黒胡麻など。

桑葉	苦 甘 寒 肺 肝	〔基原〕 クワ科マグワなどの葉。 ◆菊花に比べ清肝明目作用は弱い、清肺熱潤肺止咳作用を有する◆ 1. 疎散風熱：薬効・適応症は類似点と同様だが、止咳に優れ、咳嗽や頭痛を伴う風熱表証に多用される。㊟類似点と同様。 2. 清肺熱：甘寒性であり、肺熱を冷まし肺を潤し咳嗽を止める。肺燥熱証で、粘稠痰を伴う咳嗽・鼻部や咽頭乾燥などに使用される。㊟杏仁・貝母・麦門冬・沙参・石膏など。〔沙参麦門冬湯、桑杏湯、清燥救肺湯〕。 3. 清肝明目：薬効・適応症は類似点と同様。㊟類似点と同様。 〔用法〕 5～10g。丸・散剤や煎液の洗眼も可。
菊花	甘 苦 微寒 肝 肺 〔統一〕 辛 甘 苦	〔基原〕 キク科キクの頭花。 ◆桑葉に比べ清肝作用に優れ、かつ清熱解毒作用を有する。潤性は桑葉より強く、陰虚証にも使用可能。肝火上炎*や肝陰不足証に多用される◆ 1. 疎散風熱：薬効・適応症は類似点とほぼ同様だが、上焦の風熱を除き頭部を明瞭にする（清頭）。頭痛を伴う風熱表証や風熱に多用される。㊟類似点と同様。 2. 清肝明目：桑葉と同様に、肝経の熱を冷まして降ろし（清肝瀉火*）、視力を明瞭にする（明目*）が、より清肝作用に優れる。 (1) 肝火や風熱による頭痛・めまい・眼痛・結膜充血・眼花*・羞明*などに多用される。㊟①肝火上炎*による結膜充血・眼部の腫脹疼痛には、桑葉・夏枯草・決明子・木賊・蒺藜子など。〔菊花散、菊花茶調散〕。②肝陰不足による肝陽上亢*証のめまい・頭痛・眼花には、桑葉・釣藤鈎・牡蛎・石決明・白芍薬など。〔釣藤鈎散*〕。③風熱による眼球結膜の充血・目の腫脹・頭痛・羞明などには、桑葉・決明子・車前子・薄荷・連翹など。〔桑菊飲〕。 (2) 甘性で陰を損傷しないため、肝腎陰虚証のめまい・眼花・羞明・霞目などに使用される。㊟枸杞子（相須）・生地黄・女貞子・山茱萸・黒胡麻など。〔杞菊地黄丸〕。 3. 清熱解毒：清熱解毒作用もあり、皮膚化膿症に使用される。本作用は野菊花がより強い。 〔用法〕 5～10g。丸剤も可。生菊花を擦り潰し患部に塗布してもよい。 〔付〕 野菊花〈のぎくか〉 苦 辛 微寒 肺 肝 〔基原〕 キク科シマカンギクの頭花。

		◆菊花より清熱解毒作用に優れるが、潤性はない◆ 1. 清熱解毒：皮膚化膿症、咽頭発赤腫脹・肝火による眼瞼結膜の充血などに使用される。〔配〕紫花地丁・蒲公英・金銀花・連翹など。〔五味消毒飲〕。 〔用法〕5～10g。全草を擦り潰し患部に塗布したり、煎薬で洗ってもよい。
蔓荊子〈まんけいし〉		
蔓荊子	苦辛 微寒 肝膀胱	〔基原〕クマツヅラ科ハヌゴウやミツバハヌゴウの成熟果実。 ◆頭部顔面の風熱を散じ、よく止痛する◆ 1. 散風止痛・清頭目：風熱を散じ、軽く浮き上がり頭部や顔面に作用し、頭部と視力を明瞭にする（清頭目*）。 （1）風熱による頭痛・頭帽感・眼痛に多用される。前額部や鼻稜の疼痛に適する。微寒であり、風寒の頭痛にも使用される。〔配〕①風熱頭痛には、桑葉・薄荷・菊花・黄芩など。〔清上瀉痛湯〕。②風寒頭痛には、荊芥・防風・羌活・白芷など。 （2）風熱の眼瞼結膜充血・眼部腫脹・流涙などに使用される。〔配〕菊花・決明子・蟬退など。 （3）齒齦腫脹疼痛にも使用される。〔配〕石膏・黄芩・薄荷など。 2. 祛風止痛：祛風止痛作用と除湿作用もあり、風湿痺証の関節痛・筋拘縮・しびれなどに使用される。〔配〕防風・木瓜・秦艽・羌活・防風など。〔羌活勝湿湯〕。 〔用法〕5～10g。丸・散・酒剤も可。 〔注意〕血虚頭痛や陰虛火旺*証には使用しない。
淡豆豉〈たんとうし〉		
淡豆豉	辛甘 微苦 微寒 肺胃	〔別名〕香豆豉〈こうとうし〉・豆豉〈とうし〉・香豉〈こうし〉 〔基原〕マメ科ダイズ成熟種子の発酵加工品。 ◆外邪を散じ、肺胃の鬱熱を除く。解表除煩薬◆ 1. 解表：外感表証に使用されるが解表力は弱く、他の解表薬とともに用いられる。風熱表証・風寒表証の両者に使用可能。〔配〕①風熱表証には、薄荷・金銀花・連翹など。〔銀翹散〕。②風寒表証には、葱白（相須）など。〔葱白湯〕。 2. 除煩：発散力により、鬱熱による煩躁を取り除く。温病気分証で、鬱熱による胸悶*・煩躁*・焦燥感・不眠などに使用される。〔配〕山梔子（相須）など。〔梔子豉湯〕。 〔用法〕10～15g。
柴胡〈さいこ〉・葛根〈かつこん〉・升麻〈しょうま〉		
《類似点》		
【共通類似点】 1. 発散風熱：風熱を発散*する。病邪が表証より裏に少し入った病位で使用される。 2. 昇提陽気：陽気を引き上げ上昇させる。 【葛根・升麻の類似点】 透疹*：発散作用により、鬱した毒を皮膚の表面に出させたり、肌腠の熱邪を取り除く。同時によく使用される（相須）。〔配〕芍薬・甘草など。〔升麻葛根湯†〕。		

柴胡 苦辛 微寒 肝胆	〔基原〕セリ科ミシマサイコなどの根。 ◆陽気を引き上げ、気を巡らせ、鬱熱を去る。葛根より昇陽作用に優れる◆ 1. 解表退熱*：気を巡らせて（疏泄*），鬱熱を発散し取り除く（退熱*）。軽度の発汗作用もある。 （1）傷寒少陽証治療の重要薬。半表半裏の邪による往来寒熱*・胸脇苦満・口苦・咽頭乾燥・めまいなどに多用される。〔配〕黄芩・半夏など。〔小柴胡湯†〕。 （2）表証の外邪が除かれず鬱熱となったための強い身熱・軽度悪寒・頭痛・無汗・心煩*・眼痛などに使用される。〔配〕葛根・黄芩・石膏・桔梗など。〔柴葛解肌湯〕。 （3）瘡疾に使用される。生柴胡を多量に用いる。〔配〕草果・青皮など。〔柴胡達原飲〕。 2. 疏肝解鬱*：肝気をよく伸びやかに巡らせ、気滞を除く。肝気鬱結*のための胸腹部痞満・季肋部脹満痛・乳房のしこり・経前乳房脹満・抑鬱気分・焦燥感・月経不調・月経痛などに使用される。〔配〕①肝血虚証や脾虚証との合併による食欲不振・もたれ・月経失調・顔色不良などには、白朮・当帰・熟地黄・白芍・薄荷など。〔加味逍遙散†，逍遙散〕。②胸腹季肋部の脹満痛（感）には、枳殻・川芎・香附子・鬱金・白芍など。〔四逆散†，柴胡疏肝散〕。③肝気鬱結で熱を生じたため（肝鬱化火*）の焦燥感・眼球結膜充血・頭痛・口苦・黄色苔などには、竜胆草・黄連・黄芩・山梔子など。〔竜胆瀉肝湯†，大柴胡湯†〕。 3. 昇提陽気：清陽の気*を上らせることで、下に墜ちた気（下陷の気）を引き上げる。脾虚中気下陷*証による脱肛・子宮脱・慢性の下痢・めまい・立ちくらみ・下垂感・倦怠感・息切れ・頻尿・ほてり感などに使用される。〔配〕升麻（相須）・黄耆（相須）・人參・白朮・芍薬など。〔補中益気湯†，昇陽湯，乙字湯†〕。 〔用法〕3～10g。退熱には多量（10～15g）を，疏泄や升陽には少量（3～5g）を使用する。醋炒柴胡は疏肝解鬱に，生柴胡は退熱作用に優れる。 〔注意〕昇散の性質が強く，陰や気を消耗しやすい。そのため過度の陰虚証や陰虚火旺*証，肝陽上亢*証，氣逆*証には禁忌。また，適時滋陰補血薬や柔肝薬（白芍・当帰など）を配合すべきである。
葛根 甘辛 平〔参考〕 （やや涼） 脾胃 〔統一〕 涼	〔基原〕マメ科クズの周皮を除いた根。 ◆浮性があり，外表では退熱*や透疹*により表邪を去り，内では昇陽・生津により渴と痢を止める◆ 1. 解表退熱：軽度の発汗作用があり，鬱熱を発散させる。生津により筋を緩める作用があるため，項背の強ばり・口渴を伴う外感表証に多用される。そのほか，発熱悪寒・鼻乾乾燥・頭痛・四肢倦怠などにも用いられる。風寒と風熱の表証に使用可能。〔配〕①風寒表証には，桂枝・麻黄・白芍など。〔葛根湯†〕。②風熱表証で鬱熱を帯びたための頭痛・熱感・微悪寒・眼痛などには，柴胡・黄芩・石膏など。〔柴葛解肌湯〕。③氣虚の風寒表証には，紫蘇・生姜・人參・白芍など。〔参蘇飲†〕。 2. 透疹：発散作用により鬱した毒を皮膚の表面に出さたり，肌腠の熱邪を取り除く。発熱・口渴や下痢などを伴う麻疹の初期に多用される。〔配〕升麻・芍薬・甘草など。〔升麻葛根湯†〕。 3. 昇陽止瀉：脾胃の気を上昇させることで下痢を止める。湿熱や脾虚の下痢に多用される。〔配〕①湿熱の腹痛・テネスミス・黄苔・口渴を伴う下痢には，黄芩・黄連など。〔葛根黄芩黄連湯〕。②脾虚の下痢には，人參・白朮・茯苓・黄耆・木香など。〔七味白朮散〕。

		4. 生津止渴：津液*を潤し（生津*）口渇を止める。口渇を伴う外感表証や消渴*などに多用される。〔配〕麦門冬・天花粉・五味子など。〔麦門冬飲子〕。 〔用法〕10～15g。煨葛根は昇陽止瀉作用に、生葛根は生津・透疹・解表に優れる。 〔注意〕表虚の多汗には禁忌。 〔参考〕統一教科書では“凉性”だが、風寒証にも使用されるため平性とした。
升麻	甘辛 微寒 脾胃肺 〔統一〕肺脾胃大腸胃	〔基原〕キンポウゲ科サラシナショウマやオオミツバショウなどの根茎。 ◆清熱解毒作用を有する昇陽薬◆ 1. 發表透疹：風熱を發散し、さらに透疹*する。だが、發表發散作用は弱く、主に麻疹の初期に使用される。生升麻を使用。〔配〕葛根・芍薬・甘草など。〔升麻葛根湯†〕。 2. 昇提*中氣：脾胃の陽気を引き上げる。 （1）脾虚の中気下陷*証に使用される。適応症・配合薬は柴胡（相須）と同様。 （2）氣虚が下陷し血が保持不能（氣不攝血）となったための不正性器出血・過多月経などに使用される。〔配〕黄耆・人參・白朮など。〔挙元煎〕。 3. 清熱解毒：肺胃の熱を冷まし解毒する。 （1）胃火亢進による歯痛・歯齦炎・口内炎などに使用される。〔配〕黄连・生地黄・牡丹皮・石膏など。〔清胃散《蘭室秘蔵》、立効散†〕。 （2）風熱による咽頭の発赤腫脹疼痛に使用される。〔配〕桔梗・玄参・牛蒡子など。〔普濟消毒飲〕。 （3）温病の發斑や皮膚化膿症に使用される。〔配〕①發斑には石膏・犀角・生地黄など。②皮膚化膿症には金銀花・連翹など。 （4）陽明經（前額部）の頭痛に使用される。 〔用法〕3～10g。炙升麻は昇提中氣に優れる。 〔注意〕昇散の性質があり、陰虛火旺*や咳嗽・喘息などの氣逆*証には禁忌。また麻疹後期には使用しない。
浮萍 〈ふひょう・ふへい〉		
浮萍	辛寒 肺膀胱	〔基原〕ウキクサ科ウキクサの全草。 ◆軽く浮き昇散性があり、外表に達して解表*・透疹*・利水*を行う◆ 1. 發汗解表：發汗力が強く、無汗の風熱表証に使用される。〔配〕荊芥・連翹・薄荷など。〔浮萍銀翹湯〕。 2. 透疹止痒：麻疹の初期，風熱の蕁麻疹や湿疹，皮膚瘙癢などに使用される。〔配〕薄荷・牛蒡子など。 3. 利水消腫：表熱証を伴う浮腫によく使用される。 〔用法〕3～10g。外用，洗剤も可。 〔注意〕表氣虚の自汗には禁忌。

類似解表薬の鑑別

荊芥・防風
《類似点》
温性は弱いが祛風解表作用あり。同時に使用される（相須）。
《相違点》
荊芥——発汗力に優れる，祛風作用は弱い。 防風——祛風作用に優れる。
羌活・藁本・白芷・細辛
《類似点》
辛温性で，祛風祛湿・散寒*・止痛作用がある。
《相違点》
羌活——体表関節にある風寒湿の邪をよく除き，風寒湿痺証に多用される。藁本・白芷より祛風祛湿に優れる。 藁本——頭部によく作用，頭痛（厥陰部）に多用される。 白芷——燥性と上昇性が強く，顔面や頭部の疾患に多用される。鼻汁・帯下・湿疹・皮膚化膿症などにも使用。 細辛——温性と寒湿除去作用が強く，温裏薬に分類される。陽虚証・肺の寒飲・頭痛・身体痛・浮腫など，広範囲の疾患に多用される。
香薷・麻黄
《類似点》
辛温性で発汗解表作用と利水*作用がある。
《相違点》
麻黄——寒邪による感冒（季節を問わず）。発汗散寒力が強い。肺に作用して利水を図る。止咳平喘作用を有す。化湿や和中*作用はない。 香薷——夏季の寒邪による感冒に使用。脾胃に作用して利水を図る。化湿作用を有する。
麻黄・浮萍
《類似点》
発汗解表作用と利水作用があり，無汗の表証，浮腫，小便不利*に使用される。
《相違点》
麻黄——辛温性で風寒表実証に使用される。寒性の浮腫に使用。平喘止咳作用がある。 浮萍——辛寒性で風熱表実証に使用される。熱性の浮腫に使用。透疹止痒作用がある。

紫蘇葉・生姜	
《類似点》	
発汗解表作用があり，風寒表証に使用される。止嘔作用があり，魚類，蟹の毒を緩和する。同時に使用される（相須）。	
《相違点》	
紫蘇葉——発汗力は強い。行気和中作用に優れ，気滯による嘔吐に使用される。安胎*作用を有する。	
生姜——発汗力は弱い。温中止嘔作用に優れ，寒性の嘔吐に使用される。半夏・附子などの薬物毒性緩和作用を有する。	

解表薬のまとめ

頭痛部位と使用漢薬

部 位		漢 薬
太 陽	後頭部	葛根・羌活・川芎・蔓荊子
陽 明	前額部	白芷・知母・葛根・升麻・蔓荊子（眉稜部）
少 陽	頰部～耳部	柴胡・川芎・黄芩・細辛
厥 陰	頭頂部 or 目	藁本・呉茱萸

下線：重要薬

解表薬の効能分類

発汗作用	辛温薬	強 中 弱	麻黄・紫蘇葉・羌活・香薷 桂枝・荊芥・白芷・細辛 生姜・防風・辛夷・蒼耳子・葱白
	辛凉薬	強 中 弱	薄荷・柴胡 牛蒡子・葛根 桑葉・菊花
止痛作用	辛温薬	頭痛 痺痛 胸痛 腹痛	羌活・白芷・藁本・細辛・防風 桂枝・羌活・細辛・白芷・麻黄・防風・蒼耳子 桂枝・葱白 生姜・桂枝・紫蘇葉
	辛凉薬	頭痛 咽頭痛 季肋部痛	菊花・桑葉・蔓荊子・薄荷・葛根・升麻 牛蒡子・薄荷・升麻・蟬退 柴胡
皮膚作用	辛温薬	透疹 止痒 治疹・瘡	荊芥・胡荽 荊芥・防風・白芷 荊芥・白芷・蒼耳子・葱白
	辛凉薬	透疹 止痒	牛蒡子・薄荷・升麻・葛根・蟬退・浮萍 牛蒡子・蟬退・浮萍
他の作用	辛温薬	利水 止咳 止嘔 通鼻 安胎 止血 止瘧	麻黄・香薷・桂枝（温陽による） 麻黄・細辛・生姜 生姜・紫蘇葉 辛夷・蒼耳子・細辛・白芷 紫蘇葉 荊芥・炮姜 防風
	辛凉薬	清肝明目 昇陽 開音 止血 止瘧 利水 通便	桑葉・菊花・薄荷・蟬退・木賊・蔓荊子 柴胡・升麻・葛根 蟬退 木賊・桑葉 蟬退 浮萍 牛蒡子